

## レインマップこうべ250

降雨レーダで地上から発射した電波は、上空の雨滴に当たって地上に跳ね返ってきます。この原理を利用して、反射波(エコー)の強さから降雨の強さを平面的・連続的に観測し、リアルタイムで神戸市域及びその周辺の降雨状況を把握するシステムが「レインマップこうべ250」です。雨水ポンプの運転支援や水防情報システムと連携して防災体制に利用しています。また、この観測データは、インターネットや携帯電話を通じて公開しています。

<URL> <http://rainmap-kobe250.jp/>



## 河川モニタリングカメラシステム

想定を大きく越える降雨量による水害が増加しています。特に神戸の市街地を流れる河川は、大雨が降ると短時間で危険な水位まで上昇することがあり、迅速な避難が必要です。

被害を最小限に止める「減災」の観点から、雨量や水位といった数値データだけでなく、増水の危険性をリアルに実感できる映像を提供して、より迅速で安全確実な避難行動に役立てていただくため、また災害に対する意識を高めていただくため、河川のライブ映像を、インターネットで公開しています。

<概要>

- ・市内主要河川 22河川30か所に設置

兵庫県や神戸市が設置した水位計に近接した水位データと画像を比較しやすい場所や、浸水想定区域のうち道路等重要インフラがある場所に設置しています。

- ・暗視機能や赤外線投光器で夜間にも対応
- ・降雨レーダ等気象情報や防災情報へのリンクを設定

<URL>

- ・パソコン、スマートフォン（動画）  
<http://kobe-city-office.jp/kawa-camera/pc.html>
- ・携帯電話（静止画）  
<http://kobe-city-office.jp/kawa-camera/ktai.html>

### 河川モニタリングカメラシステム 河川映像ページ



# ハザードマップ

神戸市では、洪水による浸水被害を最小限に止めるために河川改修などの整備を進めています。一方で、梅雨期や台風による豪雨以外に、局所的な集中豪雨も頻発しており、想定外の洪水の発生が近年増加しています。

平成16年度に全国各地で発生した一連の豪雨災害もその一例で、各地で大きな被害をもたらし、多くの方が犠牲となりました。もし、住民の方々が洪水に対する正しい知識を持ち、適切な避難行動をとることができていたなら、このような大きな被害にはならなかったかもしれません。

これらの教訓を踏まえて、洪水による浸水被害の防止、軽減を図るために、水防法の一部が改正されることとなり、平成17年7月1日に施行されました。

同法改正では、現時点のハード整備で対応不能な洪水が発生した場合に、住民の方々に迅速かつ安全に避難してもらうためのソフト対策の一環として、「洪水ハザードマップ」の作成が義務づけられました。

神戸市では、河川管理者である兵庫県が作成した浸水想定区域図を広報紙 KOBE 防災特別号「くらしの防災ガイド」に掲載しています。この「くらしの防災ガイド」は毎年6月に各戸配布し、河川氾濫の他にも雨水管からの水の溢れ（内水氾濫）による浸水想定区域図、土砂災害、津波などの危険区域が掲載されています。

また、避難場所や避難方法、日ごろの備えなどについても記載しています。

「くらしの防災ガイド」は神戸市のホームページでも見ることができます。

<URL>

<http://www.city.kobe.lg.jp/safety/prevention/preparation/sand/tokubetugou.html>

防災特別号

## くらしの防災ガイド

神戸市広報紙 2014年（平成26年）

阪神・淡路大震災、東日本大震災などが発生したように…自然災害は、いつ、どのように起こるのか、わかりません。大切なものを守るためには、正確な知識と日頃の備え、緊急時の判断力、適切に避難することなどが大切です。本紙をもとに身近な方々と話し合い、災害への備えにお役立てください。

中央区  
保存版

---

**問題** 山がちにせまり、海に面している中央区に住んでいるあなたが注意するのは？

大雨

土砂災害

水害

高潮

地震・津波

本紙ではほかにも、非常時に役立つことをまとめています。

裏面の地図を見て、  
災害が起こりそうな場所や  
避難先などを確認しましょう

マークをめじるに本紙をチェック!

---

**大雨** に注意!

**雨の量・強さに注目!**

1時間15mm以上、または降り続ける100mm以上はご注意ください。土砂くずれが起こらないか、河川や下水道などがあふれそうになっていないか、警戒してください。気象・防災情報はテレビやインターネット、テレビホンをサービスで確認しましょう。

**やや強い雨** 8~15mm/時  
雨音が聞こえる。

**強い雨** 15~20mm/時  
地面に水たまりができる。  
話が聞き取りにくい。

**かなり強い雨** 20~30mm/時  
どしゃ降り、傘をさしてもぬれる。

**非常に強い雨** 30~50mm/時  
バケツをひっくり返すような雨。  
50ミリ以上になると、滝のような雨に。

**気象情報発表の流れ**

**雨が降り出す**  
気象情報・空の変化に注意!

**大雨注意報**  
警戒になる可能性がある  
その旨も発表  
最新の情報を収集し、  
災害に備えた早めの準備を!

**大雨警報**  
市が発表する避難情報に  
注意し、必要に応じ  
速やかに避難!  
※早めの行動を!!!

**避難先** 土砂災害発生の可能性が極めて高いとき  
**土砂災害警戒情報**

**特別警報** 数十年に一度の大災害が予想されます。  
**「ただちに命を守る行動を!!」**

**雨の最新情報をチェック!**

- ▶ 神戸市降雨レーダー情報/インマップころへ250  
<http://rainmap-kobe250.jp>  
上空の降雨レーダーで観測、雨についてのニュースを配信。
- ▶ 神戸地方気象台  
<http://www.jma-net.go.jp/kobe/>  
気象警報・注意報、台風予報、潮位や地震などの情報が満載。
- ▶ 神戸市雨量情報テレビホンをサービス  
TEL: 325-3960 TEL: 747-2159  
各所の雨量を順にお伝えします。(前1時間・前2時間・前72時間)
- ▶ 代表観測所 (対象地区)  
・「朝影」(東灘・灘区) ・「三宮」(中央区・兵庫区・東灘区・須磨区)  
・「山田」(須磨) (北区) ・「扇水堀田」(玉津) (東水区・西区)

区分	名称	説明
浸水想定区域	河川氾濫想定区域	河川が氾濫した場合の想定区域
	雨水管からの溢れによる浸水想定区域	雨水管からの溢れによる浸水想定区域
	内水氾濫想定区域	雨水管からの溢れによる浸水想定区域
	河川氾濫による浸水想定区域	河川が氾濫した場合の想定区域
土砂災害警戒区域	警戒区域	土砂災害発生時の危険区域
	警戒区域外	土砂災害発生時の危険区域外
高潮危険区域	高潮危険区域	高潮発生時の危険区域
	高潮危険区域外	高潮発生時の危険区域外
津波危険区域	津波危険区域	津波発生時の危険区域
	津波危険区域外	津波発生時の危険区域外

中央区



## 河川防災ステーション

河川防災ステーションとは、地震や洪水などの大規模な災害時に円滑な水防活動や緊急復旧活動を行う拠点として整備したもので、水防センターと多目的広場から成ります。平常時には住民の方々への防災に対する意識啓発の場となるとともに、地域コミュニティの活動の場や憩いの場としても利用されています。

神戸市では、新湊川と住吉川にそれぞれ河川防災ステーションを整備しています。

### 水防センター

災害時には情報拠点や指令拠点として、また災害活動を行う作業員の待機スペースとして使われます。平常時には市民のみなさんが災害や河川について学ぶことができる場となるとともに、地域コミュニティの活動の場として利用することができます。



情報スペース

新湊川河川水防センター



住吉川河川水防センター



新湊川河川水防センターでは、情報スペースを設置しており、新湊川上流の石井ダムや天王ダムの雨量や貯水位、放流量等をリアルタイムで見ることができます。

また、新湊川を中心とした河川について、タッチパネル等で学習することができます。

### 多目的広場

災害時には緊急復旧活動を行うための資材置場や作業スペースとして利用されます。また、大規模な災害が起こった場合には、他都市からの応援部隊の駐留場としても使われます。

平常時には、一般開放しており、レクリエーション活動や憩いの場となります。

また、広場内に下水高度処理水や地下からの湧水を流した「せせらぎ水路」を整備しており、住民の方々に潤いと安らぎを与えるとともに、緊急時には消火用水や生活用水として利用することができます。

多目的広場(新湊川河川防災ステーション)



多目的広場(住吉川河川防災ステーション)



七夕まつり(新湊川河川防災ステーション)



きらめきの祭典(住吉川河川防災ステーション)



下水高度処理水を利用したせせらぎ水路  
(新湊川河川防災ステーション)



地下湧水を利用したせせらぎ水路  
(住吉川河川防災ステーション)





## 災害復旧(公共土木施設災害復旧事業)

公共土木施設災害復旧事業は、暴風・洪水・高潮・地震等の異常な天然現象により、河川・道路等の公共土木施設が災害を受けた場合に、地方公共団体が国の補助を受け、災害の速やかな復旧を図り、公共の福祉を確保しようとするものです。

### 災害復旧事業

災害復旧事業は、災害を受けた施設を原形に復旧することを原則としています。ただし、原形に復旧することが著しく困難又は不適當な場合には、これに代わるべき必要な施設で復旧することができます。

なお、河川にあつては、平成9年に河川法が改正され、その目的として治水、利水に加え「河川環境の整備と保全」が位置付けられ、災害復旧に当たっても治水機能のみを復旧するのではなく、自然環境等河川が持っている様々な機能を含めた従前の効用の復旧を図るようにしています。



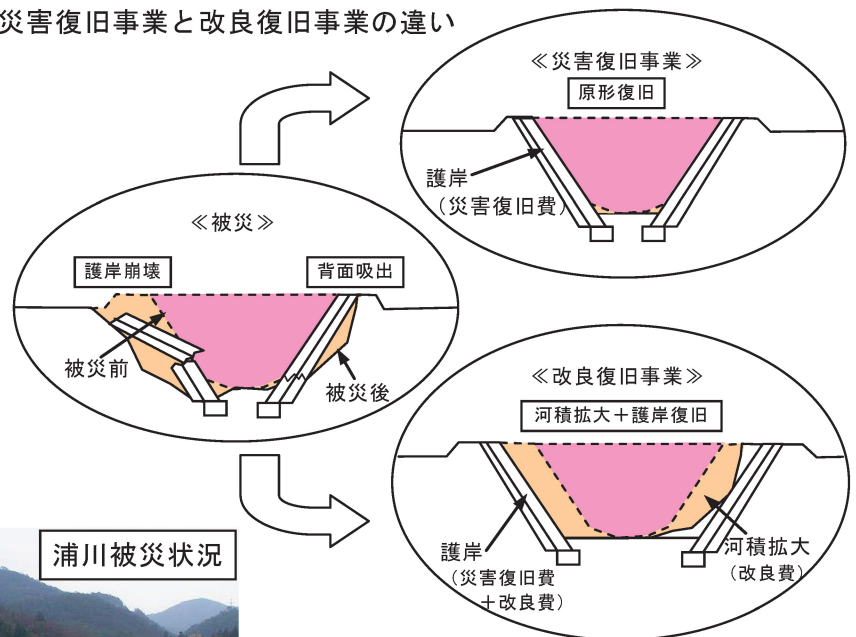
<平成16年台風23号永井谷川災害復旧>

### 改良復旧事業

災害復旧事業は、被災した施設等を原形に復旧することを原則とするため、事業の効果が限定されることがあります。

改良復旧事業とは、被災していない箇所を含めた一連の区間について、再度災害の防止と安全度の向上を図るため、災害復旧費に改良費を加えて一定計画のもとに復旧することができる事業です。

### 災害復旧事業と改良復旧事業の違い



### 浦川の改良復旧(災害関連事業)

浦川は、北区の帝釈山付近に源を発し、田園地帯を流下して一級河川淡河川に合流する準用河川です。

平成16年10月20日から21日にかけて台風23号による豪雨に見舞われました。この出水により、浦川が氾濫し河岸が決壊しました。被災箇所は河積が小さく



被災範囲が広いことから、再度災害を防止し効果的な災害復旧とするため、一定区間において改良復旧事業(災害関連事業)として実施しました。

### <改修計画>

改良復旧延長：L=476m、計画流量：Q=60m<sup>3</sup>/s、雨量確率：1/30

